〔類聚名物考飲食一〕屯食　どんじき

宗固問、鳥子、つゝみ飯、大かた下ざまへ給ふ物に候歟、今も葉につゝみて、飯など給ふこと、東武にもあり、屯食は庭上にたむろせる人に給ふ心歟、鳥のことといふも、今云は、餅のよくつかざるをいふにや、むすびたる形を鳥の卵に見たてたるにや、

胤相答、屯食裏飯下ざまへ給ふ料の物と被存候、しかし屯食は指る所廣き名にて候歟、〇中略

殿上記云、飯百櫃、酒百缶中屯、食百具、一具、中取一脚、各置中折櫃十合、就中二合菓子、二合鮮物、二合干物、二合甘鹽魚、一合鹽梅、一合土器箸、

屯食之事、説々有之候へども、此文にて其體よく相見え申候歟、盛屯食、荒屯食など申は、飾樣の名と相見え申候、和屯食と申事も有之候歟、盛屯食と同事の樣に被存候、庭上に百具二百具も並べ立るより屯食の名を得たるにやと被存候、庭上に屯する人に賜る故の御説も、本據なくては如何にて候歟、猶承度候、

俊明案るに、盛屯食は、今云木かたなどにてうちぬきたるの類歟、荒はかたなくもるにや、和は和揉の意にて色など交れる歟、若又荒と同じき歟、盛は鳥子とおなじく、にぎり飯にや、

〔松屋筆記十二〕屯食

屯食は、どんじきとも、どしきとも、濁てよむべき事也、〇中略屯はアツムルと訓字也、食はイヒ也、飯を屯たる義にて、今のにぎり飯の事をいふ、公家にては、今もにぎりめしをドンジキといへり、

〔松屋筆記六十六〕屯食

頭書　與曰、屯食ハ頓食ニテ、屯ト頓ト相通ズ、今ノ辨當ノコト也、

〔玉函叢説三〕屯食の事

屯食の事くはしくかきたる物を見ず、たゞ顯俊朝臣の記にて、順德院のいまだ春宮のほど、御